

【子ども支援と保育支援】 Part 1(前期)『保育における基軸』

09 子ども主体の保育を考える
～記録と計画の見直し～申込締切
5/17
+

[担当講師] 小櫃 智子(子ども支援学部教授)

講座日時	5月31日(土) 10:00～12:10 [60分]×2コマ(全1回)
定員	30名
受講料	《一般》3,000円 《本学学生》1,500円
対象	幼稚園教諭・保育士・保育教諭等
持ち物	筆記用具



講座概要

今、なぜ?“子ども主体の保育”なのでしょう。VUCAの時代と言われる今、目まぐるしく変動する予測困難な社会の中で、これから生きる子どもたちには複雑で様々な課題を解決する力が必要になります。こうした力を身に付けていく上で、乳幼児期を主体的・協同的に過ごすことの大切さが研究で明らかになっています。子ども主体の保育を進めていく上で何が大切となるのか、受講生の皆さんと共に考えます。また、子ども主体の保育実践のための記録と計画について解説します。

講師プロフィール

東京家政大学子ども支援学部子ども支援学科長。専門は保育学・幼児教育学。研究課題は保育者の専門性及び保育者養成教育に関する研究。子どもたちが安心して健やかに成長していける場として保育現場が機能していくために、保育を担う保育者の養成・育成が重要と考え、保育の専門性とは何かを探究しつつ、保育者養成の核となる実習教育のあり方をテーマに研究に取り組む。また、保育現場とともに質の高い保育を目指して、保育者の成長を支える研修等に力を入れている。

10 乳幼児期の探究をはぐくむ環境・保育材

申込締切
5/24
+

[担当講師] 野口 隆子(子ども支援学部教授)

講座日時	6月7日(土) 10:00～12:10 [60分]×2コマ(全1回)
定員	30名
受講料	《一般》3,000円 《本学学生》1,500円
対象	幼稚園教諭・保育士・保育教諭等
持ち物	園環境の中で“園らしさ・クラスらしさ”が表れていると思う環境写真1枚



講座概要

乳幼児期の子どもは、興味関心を持つ身近な環境に主体的に関わり、遊びながら探索から探究へと深まる中で学んでいます。保育における環境は基本ですが、発達に応じた環境の構成と再構成について、あらためて理論や実践事例を通して考えていきます。講義の中では一部、保育材・教材研究の一つとして絵本との関わり、ドキュメンテーション作成や振り返りについても解説します。また、ご持参いただいた写真を見せあいながら環境構成について語り合うワークを行います。

講師プロフィール

お茶の水女子大学大学院を経て白梅学園大学子ども学研究科博士課程修了。子ども学博士。専門は、保育学、発達心理学。主な社会活動は、公益財団法人日本教材文化研究財団研究協力者、狭山市まち・ひと・しごと創生有識者会議委員、国際幼児教育学会理事、OMEP日本委員会理事、日本教育心理学会「教育心理学研究」編集委員。主な著書は「乳幼児の保育・教育」(単著、放送大学教育振興会)、「絵本の魅力 その編集・実践・研究」(共著、フレーベル館)など。

11 表現が語る子どもの世界
～個の表現を保障する造形活動を考える～申込締切
6/7
+

[担当講師] 保坂 遊(子ども支援学部教授)

講座日時	6月21日(土) 10:00～12:10 [60分]×2コマ(全1回)
定員	30名
受講料	《一般》3,000円 《本学学生》1,500円
対象	幼稚園教諭・保育士・保育教諭等
持ち物	筆記用具



講座概要

子どもの表現活動は「創るプロセス」に、学びと育ちが集約されています。それはまるで初めての旅行のように、ドキドキワクワクの連続!保育のテーマはきっかけに過ぎず、ゴール(完成)は子どもに委ねられているのです。保育者はガイド役として、子どもたちが紡ぎ出す「自分なりの表現」のストーリーを共に楽しみ、子どもの想いを受け止めることが大切です。本講義では、子どもたちの表現をどのように読み取り、評価していくべきか、アートワークを交えて共に考えていきます。

講師プロフィール

東京家政大学子ども支援学部長 子ども支援学科教授 臨床美術士1級 彫刻家 臨床美術学会/日本臨床美術協会副会長。大学で彫刻を学び、大学院では社会福祉学を学ぶ。幼児の造形表現教育に携わりながら、臨床美術の普及のため、沖縄県、宮城県での活動を経て、2014年より本学に着任。科研費「多職種協働による芸術保育を主軸とした日常保育実践モデルの開発」、「発達支援プログラムとしての美術表現活動の確立へ向けた脳内ネットワークの解析」等の研究を推進し、美術が教育・福祉・医療に果たせる役割をテーマとして探求している。

12 乳児の健やかな育ちを支える保育
～健康な心と体の育て方～申込締切
6/21
+

[担当講師] 細井 香(子ども支援学部教授)

講座日時	7月5日(土) 10:00～12:10 [60分]×2コマ(全1回)
定員	30名
受講料	《一般》3,000円 《本学学生》1,500円
対象	幼稚園教諭・保育士・保育教諭等
持ち物	筆記用具



講座概要

乳児期は、一生の中でも心身ともに著しい発育発達が見られる時期です。この大事な時期の「健康な心と体を育てる」保育のポイントについて、最新研究を踏まえながら解説していきます。赤ちゃんは生まれながらに有能で能動的な力を持っていることが、最新の研究から分かってきました。生をうけたその瞬間から好奇心が旺盛で、自ら学ぼうとする力もっています。赤ちゃんのもつ力を理解し、保育者として、ひとりの「人」の育ちを支える視点で、健やかな育ちを支えるために保育者ができることは何かを考えてみましょう。

講師プロフィール

医学博士。専門科目は家庭支援論、乳児保育、子どもの保健。自らも保育士経験を持ち、その後、北里大学医学部で医学博士号を取得。研究課題は保育施設向けICTヘルスケアシステム構築のための検討。保育者のキャリアアップ研修における効果検証に関する開発的研究。主な社会活動は、日本アタッチメント育児協会理事、東京都家庭的保育者の会顧問、独立行政法人日本学術振興会審査委員、日本保育者養成協議会保育士試験作問委員、板橋区・葛飾区・入間市など多数の自治体主催研修会の講師を担当。